

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
株主総会	1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店
公告方法	日本経済新聞に掲載します。ただし、決算公告につきましては、会社法第440条第4項の規定に基づき、EDINET掲載の有価証券報告書をもって公告に替えております。

株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様に、全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただきます。(権利確定日:2月末)

所有株式数	商品券贈呈額
10株以上100株未満	2,000円
100株以上1,000株未満	5,000円
1,000株以上5,000株未満	10,000円
5,000株以上	20,000円

お知らせ

○株式関係のお手続き用紙のご請求について

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

TEL 0120-244-479 (本店証券代行部)

TEL 0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2685



携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年12月末日まで)です。 **ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます**



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com

第57期 中間報告書 | The 57th Interim Business Report 2006

2006.3.1-2006.8.31

point

enjoy?

楽しんでいますか？

ファッションを、仕事を、そして人生を。
私たちは、ファッションを通じてすべての人に
enjoyすることを提案します。

©当社は、2006年8月に企業スローガンとして“enjoy?”を制定しました。これは、「当社が事業を通じ、豊かな暮らしをご提供する企業」という意味を含めたものです。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
第57期中間期における事業のご報告をするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

代表取締役社長 石井 稔晃

ファッションを通じ、すべての人にenjoyを。

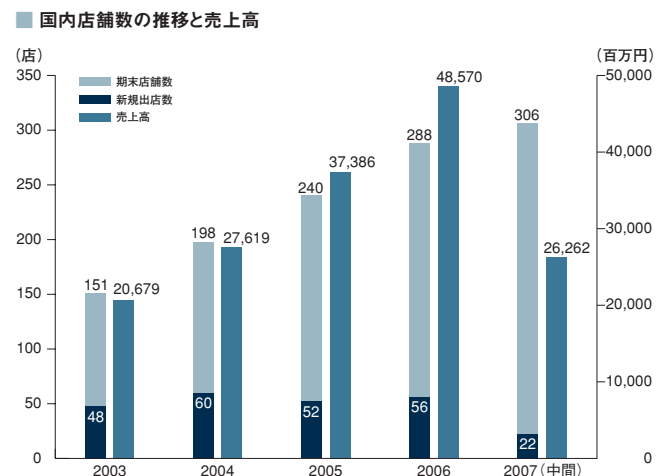
当社グループは、当期より「ビジネスモデルの展開と企業力強化」をテーマとする中期経営計画(TOP9)をスタートさせました。当中間期は、このTOP9に基づき、新ブランド「アンダーカレント」および「レプシムローリーズファーム」を投入するとともに、ジーナシスを始めとする既存ブランドの規模拡大を図り、連結ベースで売上高265億45百万円(前中間期比18.3%増)、経常利益49億34百万円(前中間期比7.0%増)、中間純利益27億20百万円(前中間期比6.3%増)と、数字的にも内容的にも満足のできる業績となりました。この結果を踏まえ、前期に引き続き中間配当を実施させていただきました。1株当たり10円増配の20円とし、年間で1株当たり50円を予定しております。今後とも、株主の皆様に対する利益還元の上を目指してまいります。

当社は8月に企業スローガン「enjoy?»を定めました。このスローガンのもと、ファッションを通じてお客様に快適で多様なライフスタイルを提案することにより、企業価値を高めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

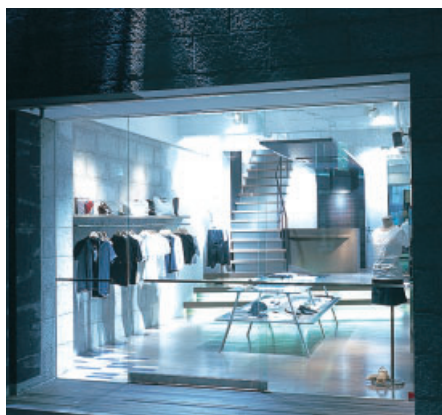


積極的な出店と改装により、売上高は引き続き堅調に推移しました。

当中間期は、グローバルワーク6店舗、ジーナシス4店舗を含む全社合計で22店舗の出店を行いました。また改装につきましては、ローリーズファーム7店舗を中心に全社合計で16店舗実施いたしました。その結果、国内売上高につきましては、前中間期比18.1%増の262億円となり、既存店売上高前年比は、4.1%増となりました。ブランド別では、ジーナシスが前中間期比81.5%増の29億円、レイジブルーが前中間期比33.3%増の20億円と主力のローリーズファーム、グローバルワークに続くブランドが順調に成長しております。また新ブランドのアパートバイローリーズ、アンダーカレント、レプシムローリーズファームは、順調な立ち上がりを見せており、今後更なる成長を推進していく方針です。当下半年期につきましても、グローバルワーク、ジーナシスを中心に54店舗の出店、ローリーズファームを中心に34店舗の改装を予定いたしております。



グローバルワーク アリオ亀有店(3月2日オープン)



ジーナシス 神戸店(4月14日オープン)



ローリーズファーム 千葉店(3月11日リニューアルオープン)

新ブランドが順調に立ち上がっています。

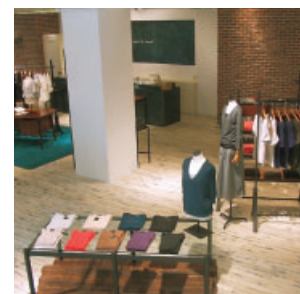
アンダーカレント 浦和美園店(4月21日オープン)

みそのウイングシティは、埼玉高速鉄道浦和美園駅とサッカーワールドカップの開催地でもあった日本最大規模の埼玉スタジアムを核に教育や福祉機能の充実を図り、子供からお年寄りまでいきいきと暮らせる良質な街づくりを計画しているエリアです。その商業ゾーンの中心にイオンの大型ショッピングセンターがあります。今後発展してゆく街の歩みとともにアンダーカレントの1号店は、お客様に良質なサービスと豊かなライフスタイルを提案します。



アパートバイローリーズ 代官山店(8月12日オープン)

高感度なショップと閑静な住宅街がバランスよく混在し、全国よりお洒落で住みたい街と人気が高い代官山。その中央を走る八幡通り沿いにアパートバイローリーズの路面店を開設しました。店内へ一歩足を踏み入ると、落ち着きと開放感あふれる空間の中、都心の喧騒から少し離れたこのエリア独特の空気を感じながら、自然体でリラックスした新しいスタイルに出会うことができます。



apart by lowrys

CLOSE UP

LEPSIM LOWRYS FARM

新ブランド「レプシムローリーズファーム」を発表しました。

「ローリーズファーム」のカジュアル感をより自然に楽しんでいただくという考えのもとに、郊外ロケーションに適した新ブランドとして年齢や画一的なライフスタイルに捉われない「レプシムローリーズファーム」を発表いたしました。その1号店として6月2日にローリーズファーム ダイヤモンドシティルクル店(福岡)を業態変更し、オープンいたしました。オープン後、順調にお客様からの支持を拡大しており、引き続きシンプルでナチュラルな空間を提供してまいります。



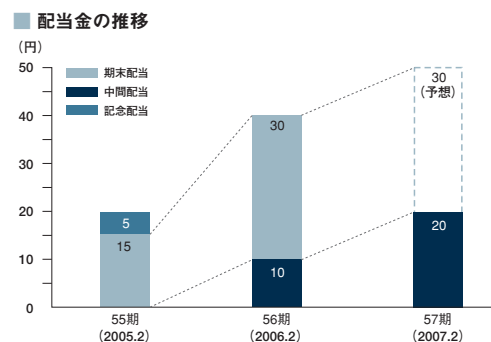
Concept

ローリーズファームのコアターゲットの上の世代である20~30歳代の女性に向けて、年齢や画一的なライフスタイルに縛られずにローリーズファームスタイルをより自然に楽しんでいただけるスタイルを提案しています。ヤングカジュアルの速いスピードでめまぐるしく変化するトレンドの部分をスリム化し、自然体でリラックスできるアイテムをプラスすることにより、新しいバランスのローリーズファームを表現します。

中間増配を実施しました。

当社は、魅力あるブランド開発等への積極的な投資に取り組むことで、一層の株主価値向上を図っていく一方、安定した配当を維持しながら、業績に応じた増配を行い、利益配分につきましても株主様に満足していただきたいと考えております。

今回の中間配当金につきましては、期初において1株当たり10円(前中間期と同額)を予想しておりましたが、業績が順調に推移し、計画を達成できたことを踏まえ、10円増配の1株当たり20円に修正することといたしました。なお、期末配当予想につきましては、30円(前期末と同額)の予定ですので、年間配当は、50円への増配予定となります。



レイジブルーが台湾に出店しました。

当社では、2003年以来台湾ヘローリーズファームの出店を実施し、現地法人の整備を進めるとともに海外展開についての成果検証を進めてまいりました。その結果、このたびレイジブルーを2店舗出店し、複数ブランド展開を図ることとなりました。今後も業績等を勘案し、確実な店舗運営を進め、グローバルブランド化に向けて取り組んでまいります。

ブランド名	店舗数(店)
ローリーズファーム	9
レイジブルー	2
合計	11

レイジブルー 台北IDEE-S館店

世界の有名ブランドショップが点在し、台北市内におけるファッションスポットの中でも注目を集める中山エリア。新進のカジュアルブランドが出店する“IDEE”において、流行に敏感なお客様へ、あらゆるスタイルをミックスした“cross edge style”を提案しています。



レイジブルー 誠品西門店

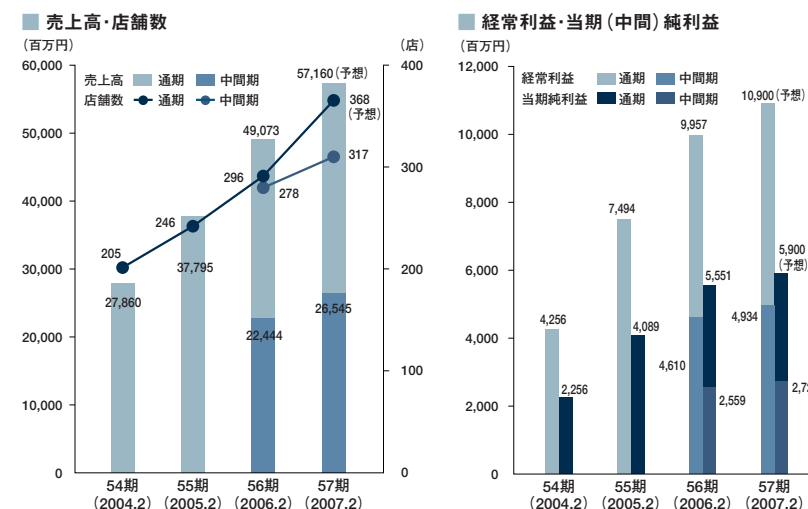
台北市西部に位置し、別名「台湾の原宿」と呼ばれる西門町。若者へのファッション発信地となっているこのエリアにおいて、レイジブルーのコンセプト“WORK&MILITARY”は、斬新かつデザインにこだわるお客様からの支持を広げています。



財務ハイライト(連結) | Financial Highlights

	54期 (2004年2月)	55期 (2005年2月)	56期 (2006年2月)	56期(中間) (2005年8月)	57期(中間) (2006年8月)
売上高(百万円)	27,860	37,795	49,073	22,444	26,545
経常利益(百万円)	4,256	7,494	9,957	4,610	4,934
当期(中間)純利益(百万円)	2,256	4,089	5,551	2,559	2,720
総資産(百万円)	17,777	23,196	29,160	24,428	29,383
純資産(百万円)	10,034	13,532	16,847	14,885	18,643
店舗数(店)	205	246	296	278	317
1株当たり当期(中間)純利益(円)	163.55	156.71	216.22	99.43	106.37
1株当たり純資産額(BPS)(円)	703.23	523.50	659.17	580.33	726.35
総資産当期純利益率(ROA)(%)	15.0	20.0	21.2	—	—
自己資本利益率(ROE)(%)	28.4	34.7	36.5	—	—

※2004年4月に1:1.2、2004年8月に1:1.5の株式分割を実施しております。



●連結決算の主なポイント

■経常利益

当中間期は、売上高が前中間期比18.3%増の265億円と順調に拡大したことにより、経常利益も前中間期比7.0%増の49億円と増益を達成することができました。経常利益率は18.6%と、前中間期と比較して1.9ポイント低下しましたが、これは、アウトレット商品の処理方法変更により、売上総利益率が0.9ポイント低下したこと、今後の成長および業務拡大を目的として広告宣伝や人材強化等に係る費用を計画的に支出したことによるものです。

■純資産

当中間期の純資産は186億円と、前期末比約18億円増加しました。この要因は、配当として約8億円の社外流出がありました。一方で好調な営業成績により中間純利益として27億円計上できたことによるものです。その結果、自己資本比率は63.4%になり、前期末比5.6ポイント向上しております。

連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表 (要旨)

科目	当中間期 (2006年8月31日現在)	前中間期 (2005年8月31日現在)	前期 (2006年2月28日現在)
●資産の部			
流動資産	18,629	15,958	19,185
現金及び預金	13,678	11,615	14,876
売掛金	2,302	1,984	1,829
たな卸資産	1,902	1,583	1,719
その他	792	788	789
貸倒引当金	△ 46	△ 13	△ 29
固定資産	10,753	8,469	9,975
有形固定資産	2,858	1,296	2,586
無形固定資産	128	103	123
投資その他の資産	7,766	7,068	7,264
保証金敷金	6,032	5,325	5,571
その他	1,931	1,882	1,870
貸倒引当金	△ 197	△ 139	△ 178
資産合計	29,383	24,428	29,160

■ 「連結貸借対照表」について

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2006年8月31日現在)	前中間期 (2005年8月31日現在)	前期 (2006年2月28日現在)
●負債の部			
流動負債	10,428	8,761	11,571
買掛金	5,329	4,681	6,468
短期借入金	81	106	98
未払金	1,781	1,579	1,876
未払法人税等	2,103	1,885	2,559
賞与引当金	588	474	490
その他	543	33	79
固定負債	312	781	740
社債	—	500	500
長期借入金	49	130	83
役員退職慰労引当金	151	151	151
賞与引当金	66	—	—
その他	45	—	6
負債合計	10,740	9,543	12,312
●資本の部			
資本金	—	2,660	2,660
資本剰余金	—	2,517	2,517
利益剰余金	—	10,993	13,729
その他の有価証券評価差額金	—	19	39
為替換算調整勘定	—	△0	2
自己株式	—	△ 1,305	△ 2,102
資本合計	—	14,885	16,847
負債及び資本合計	—	24,428	29,160
●純資産の部			
株主資本	18,594	—	—
資本金	2,660	—	—
資本剰余金	2,517	—	—
利益剰余金	15,213	—	—
自己株式	△ 1,796	—	—
評価・換算差額等	35	—	—
新株予約権	12	—	—
純資産合計	18,643	—	—
負債及び純資産合計	29,383	—	—

Financial Statements

■ 中間連結損益計算書 (要旨)

科目	当中間期 (2006年3月1日～ 2006年8月31日)	前中間期 (2005年3月1日～ 2005年8月31日)	前期 (2005年3月1日～ 2006年2月28日)
売上高	26,545	22,444	49,073
売上原価	10,497	8,655	19,383
売上総利益	16,048	13,789	29,690
販売費及び一般管理費	11,123	9,177	19,716
営業利益	4,924	4,611	9,973
営業外収益	31	14	27
営業外費用	21	16	42
経常利益	4,934	4,610	9,957
特別利益	—	—	57
特別損失	236	208	446
税金等調整前中間(当期)純利益	4,697	4,401	9,568
法人税、住民税及び事業税	2,050	1,851	4,102
法人税等調整額	△ 72	△ 9	△ 85
中間(当期)純利益	2,720	2,559	5,551

(単位:百万円)

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	当中間期 (2006年3月1日～ 2006年8月31日)	前中間期 (2005年3月1日～ 2005年8月31日)	前期 (2005年3月1日～ 2006年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	803	1,807	7,744
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,017	△ 1,651	△ 3,073
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 982	△ 1,221	△ 2,338
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 1,196	△ 1,066	2,333
現金及び現金同等物の期首残高	14,872	12,539	12,539
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	13,675	11,472	14,872

(単位:百万円)

■ 中間連結株主資本等変動計算書 当中間期 (2006年3月1日～2006年8月31日)

	株主資本					評価・換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
前期末残高	2,660	2,517	13,729	△ 2,102	16,805	41		16,847
当中間期変動額								
剰余金の配当			△ 766		△ 766			△ 766
中間純利益			2,720		2,720			2,720
自己株式の取得				△ 700	△ 700			△ 700
自己株式の処分			△ 469	1,005	535			535
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)						△ 6	12	6
当中間期変動額合計	—	—	1,483	305	1,789	△ 6	12	1,795
当中間期末残高	2,660	2,517	15,213	△ 1,796	18,594	35	12	18,643

(単位:百万円)

■ 「連結株主資本等変動計算書」について

2006年5月1日施行の会社法により、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。

会社概要 | Company Outline

(2006年8月31日現在)

■ 会社概要

会社名	株式会社ポイント
本部	東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
代表電話	03-3243-6011
設立	1953年10月
資本金	2,660百万円
代表者	代表取締役社長 石井 稔晃
事業内容	カジュアルウェア専門店チェーン
事業所	水戸本店 東京本部 国内店舗数 306店舗
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 常陽銀行
社員数	正社員909名(男331/女578)
平均年齢	27.1歳

■ 連結子会社

株式会社ボジック	資本金	100百万円
	当社の議決権比率	100%
	主な事業内容	当社取扱商品の物流業務
	事業所	水戸物流センター、福岡物流センター
波茵特股份有限公司	資本金	100百万台湾ドル
	当社の議決権比率	100%
	主な事業内容	台湾における衣料販売業務
	事業所	台北本部 11店舗

■ エリア別各ブランド国内店舗数

(単位: 店)

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	計
ローリーズファーム	10	41	15	15	7	12	100
グローバルワーク	11	32	15	12	4	14	88
ジーナシス	3	20	3	7	2	3	38
レイジブルー	3	8	2	5	1	5	24
ハレ	1	7	1	3	0	2	14
ヘザー	2	9	2	5	1	4	23
アグレア	0	0	1	0	0	0	1
アパートバイローリーズ	0	4	1	0	0	0	5
アンダーカレント	0	1	0	0	0	0	1
レブシムローリーズファーム	0	0	0	0	0	1	1
ナインブロックス	2	3	2	1	1	2	11
計	32	125	42	48	16	43	306

■ 取締役・監査役

代表取締役会長	福田 三千男
代表取締役社長	石井 稔晃
取締役専務執行役員 (管理本部・業務推進本部担当兼業務推進本部長)	遠藤 洋一
取締役専務執行役員(開発室担当)	勝山 章廣
取締役常務執行役員(営業本部長)	櫻井 健一
取締役執行役員(社長室長)	時松 克治
取締役執行役員(内部監査室担当)	日野 力
取締役相談役	黒田 博
常勤監査役	新名 宏志
監査役	横山 哲郎
監査役	前川 渡
監査役	高橋 惇

株式の状況 | Stock Information

(2006年8月31日現在)

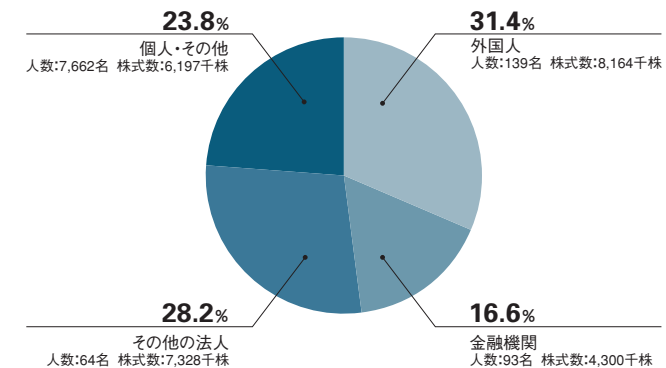
■ 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	25,990,720株
株主数	7,958名

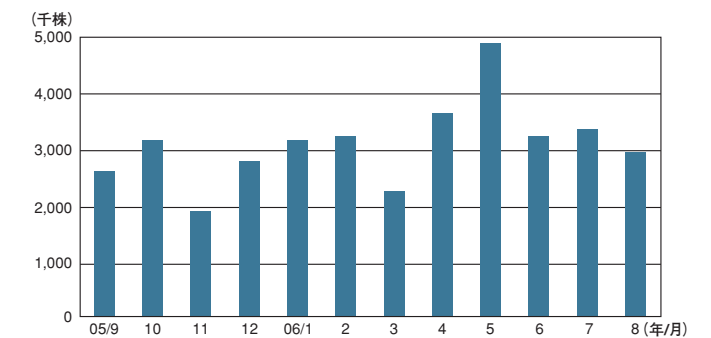
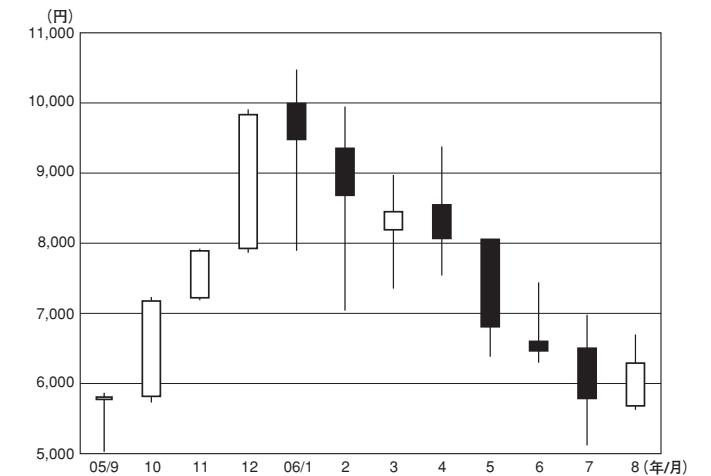
大株主(上位7名)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
株式会社テツカンパニー	2,174	8.5
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,713	6.7
株式会社フクゾウ	1,510	5.9
株式会社武平	1,500	5.8
株式会社月岡	1,500	5.8
福田 三千男	1,382	5.4
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	958	3.7

■ 所有者別株式数分布状況



■ 株価・売買高の推移



■ 株式分割の推移

年月は割当日ベース

2002年4月	1:2
2003年4月	1:1.5
2004年4月	1:1.2
2004年8月	1:1.5